

奈良大学学歌をつくった二人

— 前川佐美雄と平井康三郎 —



奈良大学図書館企画展

会期: 令和 6(2024)年 2 月 1 日(木)~3 月 30 日(土)

展示パンフレット1頁より抜粋

「奈良の京の西辺り 池あり森あるわが学舎…」

奈良大学に籍を置いた方なら、必ず歌ったことがあるでしょう。『奈良大学学歌』の歌詞冒頭部分です。

日本の学校にほぼあるといってよい「校歌」(本学では学歌)は、世界でも珍しい歌であり、近年、校歌を対象とした学術研究も盛んになっています。また各大学においても、ホームページ等で校歌の試聴や、歌詞の閲覧ができるように整備しているところもあります。

1969(昭和 44)年に宝来の地で開学してから 10 周年を迎えた奈良大学は、その記念としてこの学歌を制定し、40 年以上経た現在も校舎の位置を宝来から山陵へ変えつつ、歌詞はそのままに歌い継いできました。

「奈良大学学歌」は、作詞を奈良県出身の歌人である前川佐美雄(1910-1990)に、作曲は、『平城山』や『とんぼのめがね』などの曲で知られる平井康三郎(1910-2002)に依頼し完成しました。

2024 年は本学の創設者である藪内敬治郎先生(1866-1977)が 1925 年 6 月に薬師寺境内(現在の世尊院)に南都正強中学を創設してから 99 年目となります。

そこで、今回の展示において、奈良大学の学歌制定に関する史料を中心に、本学と源流を同じくする南都正強中学から正強高等学校の校歌に関するレコードのほか、前川・平井の両作詞・作曲者に関する史料を展示いたします。

(中略)

今回の展示によって、100 周年を控える母校に、そして奈良大学学歌をつくった 2 人に思いをよせていただければ幸いです。

2024(令和 6)年 2 月

大久保 瑞彦